標準表記法

1　本文

1.1　文章表現

(A) 一般的でない訳語と略語の表記

1. 訳語の場合はすべて小文字で
2. 略語の場合は頭文字を大文字で
3. 外国語をカタカナ表記する場合，派生語 (-er などで終わるもの) の最後の「ー」は取る (3 文字以下の場合を除く)

(B) 漢字表記

1. 接続詞はひらがなで記述する
2. 当用漢字でないものはなるべく避ける

(C) 数量と字体

1. 数量，数値を表すものはイタリック，単位，演算記号は立体 (ローマン) で記述する．
2. 単位は原則として国際単位系 (SI)，単位を囲む括弧は [ ] を用いる．

(D) 定義，定理など (末尾「書式の例」を参照)

1. 定義，定理などの重要度の高いものは,**【定義 1】**,**【定理 1】**などとし，参照する場合は，**定義 1**，**定理 1** などとする．(補題，命題，系などはこれに含まれるが，仮定，例題は重要度による．)
2. 定義，定理などより重要度の低いものは，括弧 ( ) で囲む．
   (例) (証明)，(注意) など．
3. 条件，ステップなどは，アンダーラインを引き，左づめで表記する．
   (例) <u>条件 1</u>，<u>ステップ 1</u>

(E) 箇条書など (末尾「書式の例」を参照)

1. 箇条書は一字下げて・を書き，2 行目以降はインデントする．
2. 番号をつけるときは括弧 ( ) をつける．

(F) 参照

1. 式番号には「式」をつけ,(1) 式のように参照する．
2. 上付きでない参考文献番号には「参考文献」をつけ, 参考文献 1) のようにする．
3. 表題
   数字で参照し (例: **1.**, **2.2**)，第 1 節などとしない．
4. 3 個以上連続する式番号，参考文献番号などは ～ を使って書く．

(G) アラビア数字，漢数字の使い分け
「いち」,「に」,「さん」と読む場合はどちらでもよい
「ひとつ」,「ふたつ」,「みっつ」と読む場合は漢数字

1.2　数式表現

(A) 式番の位置

1. (同じ重みの式が) 複数ある場合 → 中央
2. 複数行にわたる場合 → 最下行

(B) 式の位置

1. 同じ重みの数式は，先頭を揃える (センタリングしない)
2. 変数の範囲を表す式は “,” で区切るか，“( )” で囲む

(C) 式の性質

1. 英文原稿の場合，数式を文章の末尾とすることが可能 (文の終わりに当たる部分にはピリオドをつける).
2. 和文原稿の場合，数式は文の途中と考え，結びのことばを補う.

1.3　参考文献

(A) 特集号の場合
(例)　1) —特集号: —の最近の動向; —学会誌，Vol. 1, No. 1 (1993)

(B) 編集者 (editor) がいる場合
(例)　1) 編集者 (編): 著書名，発行社 (1993)
2) 著者: 個別論文などのタイトル，著書名 (編集者 (編))，発行社 (1993)
3) Author(s): Article Title, Book Title (Editor(s) (ed(s).)),
Publisher (1993)

(C) 投稿予定，投稿中，掲載予定，印刷中の参考文献
投稿予定:　(to be submitted to)
投稿中:　(submitted to)
掲載予定:　(to appear in)
印刷中:　(in press)
(例)
1) —，システム制御情報学会論文誌 (投稿予定)
2) —，システム制御情報学会論文誌 (投稿中)
3) —，Vol. 1, No. 1 (1994), (掲載予定)
4) —，朝倉書店 (印刷中)

(D) その他

1. 出版社の地名は入れない
2. ページ番号は pp. 1 − 10 のように書く
3. 定期刊行物で誌名より発行元の類推が困難な場合は，発行年の直前に発行元を記載
(例)　著者: 論文名; 誌名，Vol. 1, No. 1, pp. 1 − 10, —社 (1994)
4. 重版などの “版” の位置は，誌名の後
(例)　著者: タイトル, 3rd edition, M.I.T. Press (1994)

5. 単語の頭の文字は大文字 (冠詞・接続詞・前置詞などは除く)
6. 著書名，雑誌名は斜体（イタリック）
7. 学協会名は，冊子名 (論文集名など) より明らかな場合は入れない
8. IEEE の文献は，Transaction 名や Journal 名を IEEE が定めている略語で記載すること (末尾「IEEE 省略の例」参照)
   (例)　—; IEEE Trans. Automat. Contr., Vol. AC-34, No. 1, pp. 66~70 (1992)
9. システム制御情報ライブラリーの表記
   著者名 (システム制御情報学会 (編)): 書名，システム制御情報ライブラリー○，朝倉書店 (1994)

1.4　付録

(A) 表題をつける

(B) 式番は (A1), (A2), ··· と頭から順にふる

1.5　著者略歴

項目の優先順位ならびにコンマとピリオドの使い分けに注意.

(例)

氏　名 (ふりがな) (正会員・学生会員である場合，明記)

写真

生年月日．19XX 年 XX 月—大学工学研究科博士課程修了．同年 XX 月—大学工学部システム工学科助手，19XX 年 XX 月同助教授，19XX 年 XX 月—大学理工学部応用数学科教授となり，現在に至る．その間，19XX 年 XX 月 ~19XX 年 XX 月—大学客員研究員．—の研究に従事．工学博士．19XX 年度—学会論文賞受賞．IEEE フェロー．—学会，—協会の各会員.

2　図表

(A) 図表の構成

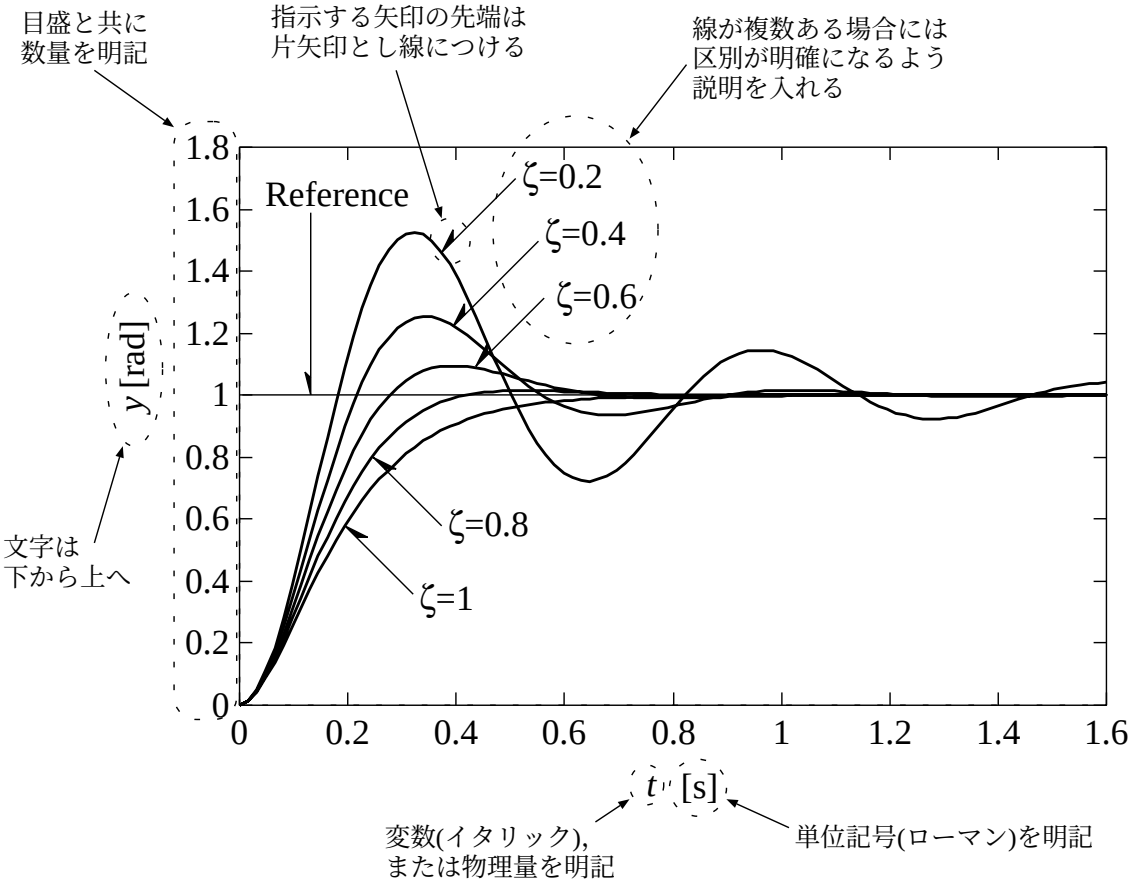

Fig. 1　Response of second order system ($\omega_n = 10$)

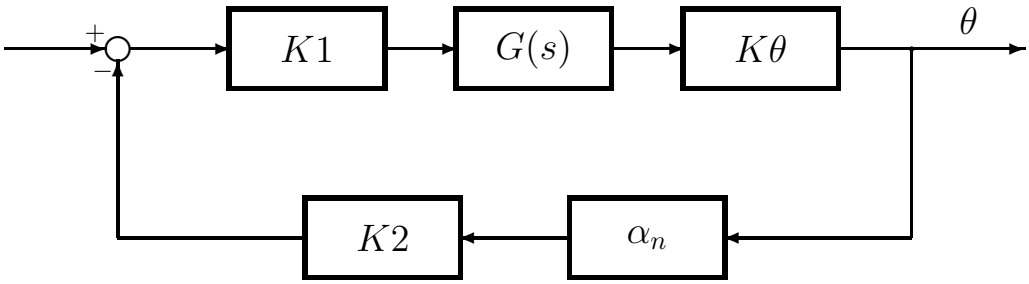

Fig. 2　Block diagram of the feedback system

(注意) 指し示す矢印は片矢印 ⇀ とし，ブロック線図などで流れを示す矢印は両矢印 → とする．

(B) 表の構成
空欄は作らず，必ず[ ]，[-]などでうめる．

(C) 縦・横軸物理量表記は，基本的にすべて小文字，もしくは接頭文字のみ大文字，ほかは小文字とする．なお，略語や固有名詞はこの限りではない．

書式の例

□【定理 1】　定理の内容はこの部分です．定理の内容はこの部分です．定理の内容はこの部分です．定理の内容はこの部分です．定理の内容はこの部分です．

□ (証明) 証明の内容はこの部分です．証明の内容はこの部分です．証明の内容はこの部分です．証明の内容はこの部分です．

<u>条件 1</u>　条件の内容はこの部分です．条件の内容はこの部分です．条件の内容はこの部分□□□□です．条件の内容はこの部分です．条件の内容はこの部分です．

箇条書の場合

(1) 箇条書の内容はこの部分です．箇条書の内容はこの部分です．箇条書の内容はこの□□ 部分です．箇条書の内容はこの部分です．

(2) 箇条書の内容はこの部分です．箇条書の内容はこの部分です．箇条書の内容はこの□□ 部分です．箇条書の内容はこの部分です．

表題と説明文の場合

□ (1) 表題

□説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．

□ (2) 表題

□説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．説明文はこの部分です．